北の縄文文化回廊
に向けたクラブ活動

通　信

第　9　号

大船遺跡清掃の様子

目　次

はじめに　平成18年活動内容・・・2　学習・研修・・・3～4
イベント・・・4　参加協力・・・5～7　南茅部地区発掘情報・・・8

はじめに

平成18年度はクラブにとって地域の活動団体との連携による活動が多くありました。10月には縄文シティサミットや縄文市民サミットが開催され、会場には展示コーナーが設けられ、クラブのこれまでの活動を紹介するパネル展示やアンギン編み機で編んだコースター・勾玉などの作品も展示しました。市民サミット終了後のワークショップでは土器づくり・勾玉づくり・アンギン編み、そして今回初めての試みとして漆の櫛づくりも行いました。今後も皆さんがより一層楽しめるよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思います。

以下、18年度の活動内容を報告いたします。

平成18年度　活動内容

活　動　日	主　な　活　動	参加人数	活動場所
5月20日	第9回「北の縄文ＣＬＵＢ」総会	21名	南茅部公民館
6月17日	大船遺跡周辺清掃	11名	大船遺跡
7月29日	コモツチづくり	11名	臼尻町
9月10日	伊達市縄文祭り参加	6名	伊達市
9月16日	アンギン編み機作成	11名	南茅部公民館
10月1日	ＮＰＯ祭り参加	6名	函館市
10月5日	縄文シティサミット参加協力	200名	函館市
10月7日	縄文市民サミット参加協力	200名	函館市
1月27日	アンギン編み	15名	南茅部公民館
2月3日	大沼ストリートキャンドル設置、点灯参加	7名	七飯町
3月3日	シーニック・花の勉強会	5名	七飯町

大船遺跡周辺清掃活動

6月17日(土)どんよりとした春霞のような天候のもと、大船遺跡に集合した会員の人達は、上下厚手の服装と長靴を履いて草刈を始めました。この草刈は、大船遺跡を訪れる人達に気持ちよく見学していただく為に行ったものです。大舟川に面した縄文の小道に足を踏み入れると、6月ともなれば早いもので草丈は50cmも伸び、鎌を持つ手にも力が入ります。縄文の人達は、この小道を通って海や川に行って魚や貝などを採っていたかも知れません。この原風景は縄文の人達の生活を想像させてくれます。

あと少しで終了

草刈を終えて戻る途中、誰かが「珍客が竪穴住居に遊びに来ているよ」という声に私達はキタキツネの親子の微笑ましい光景にホット心がなごみました。私達もこの親子に負けないくらい、訪れる人達におもてなしの心で、この清掃活動をこれからも続けていきたいと思います。

コモツチづくり

7月29日（土）夏真っ盛りの暑い日、アンギン編みに必要な道具であるコモツチづくりに10人の会員が参加しました。このコモツチは経糸を吊り下げる為に必要な道具で材料となるタニウツギの枝は、あらかじめ採集し用意しておきました。

タニウツギは、初夏に可愛いらしい花が咲き、山の緑に映えるそのピンク色はすぐ見つけることが出来ます。コモツチには、直径2cm前後のまっすぐ伸びた枝を利用します。タニウツギの木質は堅いのですが、芯の部分がスポンジ状で柔らかく、穴が開けやすいので、コモツチには最適な材料です。

使用する道具は鋸とナイフと錐（きり）です。まず鋸を使って10cm前後の長さに切り揃え、ナイフで斜めに木を削ります。次に木の中心に糸を通す穴を錐で開けると出来上がりです。コモツチは、編み機一台につき14個から20個くらい使用します。この日は全部で20台の編み機に必要な数の、コモツチを作り上げました。

作業が終わった後、タニウツギを見たことがない参加者の為に裏山へ行った所、可愛いピンクの花が可憐に咲いていました。

分担して作りました

ここが堅いのよね

出来上がり

アンギン編み機づくり

10月に実施される「縄文市民サミットinはこだて」のワークショップ部門は、当クラブが運営に当たるため、「アンギン編み」の講習会に使う編み機作りを公民館で行い、14名のクラブ員が集まりました。

「北の縄文ＣＬＵＢ」式アンギン編み機が今のデザインになるまでには、色んな工夫がなされました。 機能的でしかも手軽に出来るものを目標に、事務局一人ひとりが考えて作成したものを持ちより、皆で相談をしました。その中で一番作りやすく、運びやすいということで採用されたのが、今のデザインです。 この編み機は、長さ約70センチ以下の８枚の板、２本のねじ留セットと数本の釘で作ります。縄文人はどんな編み機を使って、アンギンを編んでいたのでしょうか。

みんな真剣です

日曜大工はおまかせ！

ケタに溝を入れます

遺物としては見つかっていないようですが、編み機を自作してみるといろいろな想像をしてしまいます。参加者の中には遠く札幌や乙部町から来られた方もいました。遠路お疲れ様でした。お蔭を持ちましてこの日は10台の編み機が完成し、現在クラブが所有する編み機は20台になっています。この編み機をおおいに使って、沢山の人達にアンギン編みの体験をしていただきたいと思っています。

出来上がりの確認もバッチリ

第２回函館NPOまつり

10月1日（土）好天に恵まれ函館駅近くのクイーンズポートはこだて・ふれあいイカ広場で、「第２回函館NPOまつり」が開かれ、会場はフリーマーケットや「FMいるか」の中継放送もあり，4000人を超す人出で賑わいました。

この催しは函館市内及び近郊で活躍するNPO法人（特定非営利活動法人）や、各種自主活動をしている48団体が集まり、その活動内容を公開し、広く市民の皆さんに存在アピールしようというもので今回が２回目、当クラブも昨年に引き続き参加しました。市民パワーパビリオンのコーナーに、アンギン編み機、製作土器、勾玉などの作品と、縄文土器づくり大会などの写真を展示、「北の縄文ＣＬＵＢ」の活動の様子を、事務局員５名で説明に当たりました。ところで展示した勾玉を購入したいという人が何人もおられたことは意外でした。この催しは物品の販売が自由に出来ることが特徴で、次年からは勾玉や小さな土器など販売することで、より多くの人々の関心を呼ぶことができるように思われます。

たくさんの人が集まりました

活動の紹介コーナー

クラブのＰＲの様子

「縄文市民サミットｉｎはこだて」

奥平先生の熱い語らい

講演を聴く参加者たち

10月７日（土）函館市の主催による「第1回縄文市民サミットｉｎはこだて」が、南茅部公民館で開かれ、協賛した「北の縄文ＣＬＵＢ」にとって今年最大の行事になりました。このサミットは、私達の先祖である縄文人の生活、文化、生き様を探求していくことに楽しみを求める、日本各地の市民が集まり、意見を交換する場にしようと企画されたものです。

地元函館を中心に約400人の参加者がありました。午前の部では、ＮＰＯ法人函館市埋蔵文化財事業団主催の「2006縄文の道フォーラム」が開催され，どうなん学びサポートセンター理事長奥平忠先生による「学びと体験を取り入れた縄文観光」と題した講演がありました。昼食時には、縄文食体験があり、縄文そば、シャケ鍋、栗ご飯、縄文クッキーの試食をしていただきました。縄文クッキーは事業団から依頼を受けて事務局が一週間かけて焼き上げたものです。午後の部では道内外の縄文関連６市民団体の代表者による、各地の縄文文化普及活動の現状と問題点の討論に耳を傾けました。当クラブからは副会長が報告者となり南茅部地区の大型遺跡と大量の発掘遺物の概要について説明し、「北の縄文ＣＬＵＢ」の日常活動、他地域との交流の実績などについて発表しました。

サミット終了後出席者の中から希望者を募り、縄文土器の製作、アンギン編みによる布作り、勾玉作り、櫛作りと四コースに分かれ体験講座（ワークショップ）を開き、それぞれのコースでクラブ員が指導に当たり、参加者の皆さんに喜んでいただきました。

各コースのようすについては、次項以下それぞれの担当者の報告をご覧ください。

「縄文市民サミットinはこだて」

～縄文ワークショップ部門～

土器づくり

短い時間で作れるように粘土は400g家庭のオーブンで手軽に焼ける環境に優しい粘土を使用しました。土器の大きさは目安として底部の直径が5cm前後、高さはオーブンに入るよう14cm位までにしました。焼く温度は160度～180度が目安です。パネルディスカッションに参加した団体の人達の中には、とても手馴れた人もいました。多勢の方々は初めての土器づくりを体験され、それぞれ自信作を手に持ち帰られました。次回はぜひ「縄文土器づくり大会」で、大きな土器に挑戦し、野焼きの醍醐味を味わってもらいたいと思いました。

はい！形が出来ました

出来上がりが楽しみです

アンギン編み

講座では縄文の布といわれるアンギン編みを行いました。もちろんアンギン編み機は、クラブ特製の機械を使いました。糸は白、紺、オレンジ、グリーンの四色を用意しました。編み方は１本の綿糸を経糸で絡めていく基礎アンギンです。

最初は編み方の説明をし、早速編んでいただきました。参加者の中には、糸を絡めてうまく進まなかった方もいましたが、後半はコツをつかんだのか上手に仕あげることができました。

アンギン編みを通して縄文の技術の一端を知ることができたと思います。

みんな真剣です

ふう～　出来てきたあ

勾玉づくり

市民サミットのワークショップで、勾玉作りには20名の参加者がありました。

材料は「滑石」という柔らかく削りやすい石を使います。滑石プレートに勾玉の形を鉛筆で下書きをし、紐を通す為の穴を開けたものをあらかじめ用意しました。

手が真っ白です

夢中で削っています

次に形にそって削っていきますが、最初は目の粗い紙やすりを使い、仕上げに目の細かい紙やすりで仕上げていきます。

参加した子供達の手はもちろんのこと顔まで白くしながら熱中していました。きちんとした形になるかどうか心配でしたが、縄文人に負けない、それぞれ個性的な勾玉が出来上がり、参加者の嬉しそうな顔を見てホットしました。

櫛づくり

縄文のアクセサリーとして代表されるものの中に、漆塗りの櫛があります。漆櫛づくりはクラブの新しいメニューとして、今回初めて行われました。材料は、割り箸、紙粘土、紐、絵の具を用意します。歯の部分は、割り箸を１本ずつ巻いてつなげていきます。次に糸を巻いた部分の上に紙粘土をかぶせて形を整えていきます。粘土が乾いたら上から赤や黒の色を塗って完成です。参加者は出来上がりに満足していたようで、縄文のおしゃれに触れることができたのではないでしょうか。おしゃれ心は縄文時代も今も変わらないですね。

うまく出来るかしら

最後の仕上げです

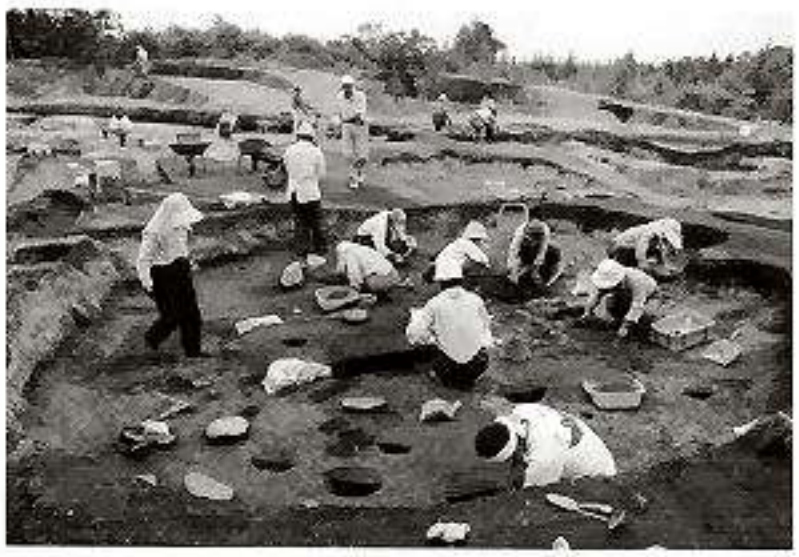
出来上がり

南茅部地区発掘情報

平成18年度に、ＮＰＯ法人函館市埋蔵文化財事業団が実施した臼尻Ｃ遺跡と豊崎Ｃ遺跡の発掘調査の様子を紹介いたします。

臼尻Ｃ遺跡

遺跡は函館市臼尻町の標高約60～70mの海岸段丘上に位置しています。見つかった遺構は竪穴住居が25軒、土杭が40基です。時期は主に縄文後期中葉（約3,500年～3,200年前）に営まれた集落跡です。遺物は、赤く彩色されたとても鮮やかな土器が出土しました。石器では石鏃や錐、ナイフ、石を擦り切るための石鋸など多数の道具類が出土しました。また、ヒスイの飾り玉や土で作られた耳飾りなどのアクセサリーが出土しました。



竪穴住居跡の調査（臼尻Ｃ遺跡）

豊崎Ｃ遺跡

函館市豊崎町の標高約60～70mの海岸段丘上に位置しています。見つかった遺構は竪穴住居跡が１軒、土杭が11基です。時期は縄文中期後葉～後期前葉（約4,200年～3,800年前）に営まれた集落跡です。遺物は、土器、ナイフ、擦石などが出土しました。

発掘調査の様子（豊崎Ｃ遺跡）

―中空土偶―

国宝おめでとうございます！

今から32年前に旧南茅部町著保内野遺跡から出土した中空土偶が北海道で初めて国宝に指定されました。7/1～8/19日まで、市立函館博物館で特別企画展「蘇る北の縄文ロード　―発掘された縄文の世界―」で一般公開されました。

国宝　中空土偶

2007年８月31日　第９号発行
発　行　北の縄文CLUB
連絡先　北海道函館市臼尻町603-1
特定非営利活動法人
函館市埋蔵文化財事業団内
TEL　0138-25-5510
FAX　0138-25-5606